である。所謂勞資調整の問題を取り上げて之が達成に乘出すべく今日は正に絶好の機會であつて、今日を措いて斯る好適の機會の再び來るべしとは思はれない。のみならず、今日たるやこの方策實施の無二の好機たるに止まらずその實施を最も緊要とする秋に屬してゐるのである。蓋し今日勞資の關係が圓滿なる狀態にあることに滿足し若しこれを漫然放任し置くが如きことあらんか、後に至つて取返しの付かざる大なる悔を殘すに立至るべきことを虞るゝが故である。歐洲大戰の事例を微すに戰爭の當初に於ては何れの國に於ても勞資の協力が唱へられ始の内は何等事なきを得たのであるが、戰爭が長びき、諸般の困難なる問題が蜂起するに及んで、國民の擧國一致の氣持に弛緩を生じ、勞資の協力は破れて、戰時中既に於て勞働爭議の頻發に惱み、殊に戰後に於て勞資の對立抗爭頓に激化し、爲に各國何れも勞働者が其の犧牲を蒙めたことは人のよく知るところである。因より國情を異にする我國と西洋諸國の場合とは之を同日に論ずることの出來ぬのは言ふを俟たない。併しながら今次事變は極めて重大であつてその終結は何時の日か、將又その結末は如何樣に付くのであるか何人と雖も容易に逆睹し得ざるものがあり、今後時局の推移に伴ひ、戰時中若くは戰後に於て産業勞働界に幾多複雜困難なる問題が相次いで惹起するであらう事は當然豫想せられる處である。斯る事態に遭遇した時勞資の間が尙完く今日の如き狀態を以て終始し得るや否や慮念なき を得ないのである。今日より深く是等の點に思を致し幸今日見るが如き勞資間の美風をして再び荒廢に歸せしむるが如きことなからしむる樣益々之を助長育成して確固不動のものたらしむることが最も肝要のことであつて、所謂勞資調整問題に關し何等かの適當なる對策を樹立してこれを實行する事は正しく現下喫緊の要務であると言はねばならぬ。

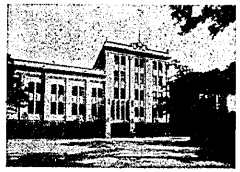
四

然らばその具體的實行方策如何と言ふ事になるのであるが、要するに事柄の根本は勞資双方の心構への問題、精神の問題にあるのであつて、勞資一體、産業報國の精神が勞資關係を規制する根本の基調である以上、勞資双方をして如何にして此の精神に徹せしむるかと云ふ處に調整方策の眼目がなくてはならぬのである。凡ての事業主凡ての勞働者が眞に斯る精神に徹し其の日常實踐に於て之を如實に具現して行くと言ふ狀態に達し得たとすれば茲に勞資の問題は完全に解決を見ると言ふ事になる譯である。勿論吳れも究易の事ではないのであらうが我々の目標は飽くまで其處にありと言はねばならぬ。從つて此の際先づ何よりも大切なる事は普く勞資双方に對し勞資一體産業報國の精神を滿喫徹底せしむる爲に一つの大なる全國的運動を起すと言ふことである。此の精神の强調宣揚を圖る爲に恰も國民精神總動員の如き運動を産業勞働界に捲き起すことが此の際極めて必要なことであり、又其の方法の如何に依つては必ずや相當なる效果を擧げ得ると信ずるのである。而して此の場合の精神を如實に發揚し具現せしむる爲に適當なる組織を設けしむると言ふことである。唯勞資の指導精神を外部から之を說き之を强調すると言ふ丈では尙不充分であつて事業の中に於て勞資双方が眞に此の精神を生かし其の日常の行動實踐の上に之を具現せしむる爲め即ち勞資一體産業報國の實を擧げしめる爲にそれに都合よき何等かの仕組を事業場の中に設けしむることが必要であると考へるのである。惟ふに勞資一體を實現する上に於て最も重要なることは勞資双方の意見が完全に疏通し合ふと言ふことである。各の心が相結んで一つの心になりきつて終ふならば其處には勞資爭議の起るべき餘地もなく勞資の對立などと言ふことも なかるべきである。お互の心が眞にピッタリと融け合ふことが最も大切であつてそれが爲には事業主は眞に親心を以て從業員の爲に其の福祉を圖ることを心懷け從業員は忠實に其の本分を盡して事業の發展に努むることが必要であり又お互の氣持の間に何等の誤解も感情の縺れも不平不滿もないと言ふ狀態に達することが何を措いても必要であると思ふのである。勞資双方が眞に親子の情を盡し一つ心に融け合ふこと即ち眞の意味の意思の疎通がなくしては勞資一體の具現は望み得べくもないのである。從つて斯る意味の意思の疎通が國民精神總動員の如き運動を産業場の中に

社會政策學院　學生募集

（第四十一回講習）

戰時下の社會政策



會場　東京市芝公園協調會館内

講習期間　本學院教室（電話芝二一三四）
自昭和十三年九月十九日（月）至同　年十二月十七日（土）
（日曜祭日休講）

講習時間　自午後六時至九時
昭和十三年九月十日限り

講習申込
受講資格　年齢二十歳以上にして中學校、實業學校高等女學校卒業の者又は之と同等以上の學力ありと認むべき者にして詮衡の上入學許否を決定、講習開始前之を通知す

講習料　金拾五圓也（講習開始式當日迄納入のこと）

科目及講師

正科講座

日本國民思想の特質　大正大學教授　矢吹慶輝氏
現代社會思想　東京帝國大學教授　河合榮治郎氏
最近に於ける經濟の動向　東京帝國大學教授　土方成美氏
最近に於ける政治の動向　東京帝國大學教授　蠟山政道氏
社會政策及勞働問題　東京商科大學教授　社會政策學院長　法學博士　鹽澤昌貞氏
社會政策と財政　經濟學博士　井藤半彌氏
勞働立法　前東京帝國大學教授　法學博士　孫田秀春氏
海外社會運動の動向　國際勞働局　東京支局長　鮎澤巖氏
我國社會運動　厚生省勞働局長　鈴木宗正氏
勞働組合、無産政黨運動　協調會參事　坂井隆治氏
國家主義運動　同　參事　山本巖氏
農民運動　同　參事　村山重忠氏
協同組合運動　協調會參事　蒲生俊文氏
勞働者保護政策　厚生省勞働局監督課長　協調會常務理事　産業福利部長　蒲生俊文氏
戰時下の産業福利　厚生省技師　武田晴爾氏
戰時下の災害防止問題　協調會參事　長谷孝之氏
戰時下の勞務管理　協調會參事　大内經雄氏
熟練工養成問題　日本勞働科學研究所長　醫學博士　陳峻義等氏
戰時下の勞働衛生問題　榮養研究所長　醫學博士　佐伯矩氏
勞働者榮養問題　厚生省技師　醫學博士　古瀨安俊氏
社會保險と醫療組織　傷病軍人保護院長　醫學博士　堀田健男氏
傷病軍人保護問題　企畫院調査官　美濃日時次郎氏
戰時下の中小工業問題　厚生省職業部長　熊谷憲一氏
戰時下の職業行政諸問題　商工省工務局機械工業課長　橋井眞氏
物資調整の諸問題　小島經濟研究所長　小島精一氏
戰時下の物價對策　東京帝國大學教授　農學博士　東畑精一氏
戰時下の農村問題　中央社會事業協會常務理事　原泰一氏
時局と社會事業　協調會常務理事　長岡保太郎氏
戰時下の失業及轉業問題　協調會調査部長　町田辰次郎氏
産業道と産業報國　協調會常務理事　總務部長　町田辰次郎氏

特別講座

社會思想批判　慶應義塾大學總長　經濟學博士　小泉信三氏
我國人口問題　東京商科大學學長　法學博士　上田貞次郎氏
日滿支經濟關係　高橋經濟研究所長　高橋亀吉氏
最近に於ける世界の情勢　衆議院議員　法學博士　芦田均氏
其の他重要時局問題に就て

實地講座

會期中　數回（土曜日　午後）
工場其他に於て産業並勞働事情實地を見學講習を爲す

研究・懇談會
戰時下の重要問題に關し研究懇談する會を隨時開催

協調會概覽

本部＝東京市芝區芝公園（總務部、調査部、産業福利部）
大阪支所＝大阪市北區中之島
名古屋出張所＝名古屋市縣廳内
福岡出張所＝福岡市縣廳内

目的　本會は社會政策に關する諸般の調査研究を爲し並に其の實行を期し、進んで事業主と勞務者との協同調和を圖るを以て目とす

事業　本會の事業は左の如くである
一、公私ノ機關ト連絡ヲ保チ社會政策ニ關スル調査研究ヲ爲シ其結果ヲ公表スルモノトス
二、社會政策ニ關シ政府ノ諮問ニ應ジ又ハ政府其他公私機關ニ對シ意見ヲ提出スルコト
三、社會政策ニ關スル學校、講習會、講演會、圖書館等ヲ開設スルコト
四、勞務者教育及福利增進ニ關シ適當ナル施設ヲ講ズルコト
五、勞働紛議ノ中農和解ニ盡力スルコト
六、前各號ノ外評議員會ノ議決ヲ經タル事業

主要施設
社會政策學院、東京工業專修學校、圖書館、協調會館、産業福利博物館

役員及職員
會長　公爵　徳川家達
副會長　水野錬太郎
常務理事　大橋新太郎
町田辰次郎
長岡保太郎
蒲生俊文
鹽澤昌貞
大内經雄
社會政策學院長　主事
同